ひろば

Vol.127　2014.03.25. 発行
東京工芸大学同窓会
http://www.t-kougei.gr.jp
発行人：田沼　武能
〒164-8678
東京都中野区本町 2-9-5
TEL & FAX　03-5371-2732（事務局）

同窓会の将来を考える

東京工芸大学同窓会　会長
田　沼　武　能

学校を卒業すると自動的に同窓会会員になる。しかし誰しも卒業して間もない頃は、母校に必ずしも良い思い出を持たないものが常のようだ。それより自立して生きてゆくために必死であり、そんな余裕がないのが現実であろう。

私はある日、某大学の同窓会に招かれ参加したことがある。一回で全卒業生を集めることは出来ないので 10 年に一回めぐるようになっている。今年卒業した者は 10 年後に同窓会に出席することになる。それでも大講堂は同窓生で満員になる。「都の西北、早稲田の森に♪・・・」の校歌が始まると、みんな肩を組み大合唱になった。同窓生はみな学生の頃の青春時代になりきっていた。いい同窓会だな。これでこそやる意義がある。と感動した。

さて、工芸大にはそんな皆が結集するような校歌も応援歌もない。どうすれば魅力ある同窓会が開けるか、考え続けているが策が見当たらない。学校ではホームカミングデーを毎年開いている。母校の現実を見てもらいたい。愛校精神を持って欲しいとの願いをこめてであるが、なかなか活気が出ない。

写真の教育のために生まれた学校で、私が入学した時は写真技術科と写真工業科の二つしかない三年制の専門学校であった。その後写真印刷科が増えたが中心が写真関係である四年制の大学になってからは芸術学部になり、写真学科の他にデザイン、映像、マンガ、アニメーション、ゲーム、インタラクティブメディアなど７つの学科を新設して学生数約 5000 名を超える総合大学となっている。

しかし、学科が増えたことによって同窓生が集まりにくくなっている。勿論卒業して間もない同窓生は、前途の通り、自分の仕事の方向性を決めるなど、生きる道、自分を売る作品の制作に人生をかけているので同窓会に出るゆとりがないと思う。思うに学校在学中に各学科が協力して大事業を行うことで、学生の連帯意識を高める必要があるかと考える。それでなければ細分化した学科の卒業生（同窓生）は横の連絡もなく一堂に集めることは至難の技であろう。

それには在学時代に全校生をあげて大イベントを実施し成功させる。それによって学生同士が連帯意識を高めることにつながり、仲間感が生まれるのではなかろうか。現在は写真関係の同窓生が中心になって運営しているが、芸術学部各学科卒の同窓生が一丸となって同窓会を支え運営していただきたいのである。

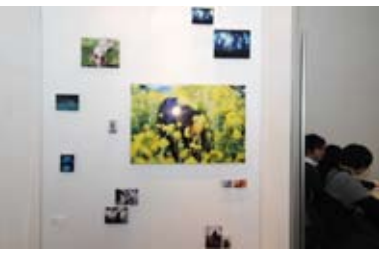
2014 卒業制作展が開催されました！

2014 年2 月21 日～23 日の３日間、秋葉原駅前のＵＤＸの3 フロア（2 階、4 階、6 階）にて「東京工芸大学卒業・大学院修了制作展2014」が開催されました。

開場に先立ち学長から開会の宣言がされ、2014 年卒業制作展が開幕しました。３年目の秋葉原会場開催となった本年は、２階にはデザイン学科の全３コースが一堂に会し、４階には、写真学科、映像学科、インタラクティブメディア学科、アニメーション学科、ゲーム学科が集結し、マンガ学科は６階に配置され、来場者やご父兄にも目的の学科が見つけやすく大変好評でした。前週、前々週は週末に東京にも降雪があり、心配されましたが、開催期間中は外は北風が強かったものの多くの来場者があり、盛況でした。

卒業制作展 2014

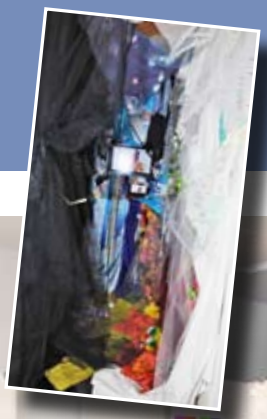
写真学科
Department of Photography



卒業制作展 2014

映像学科

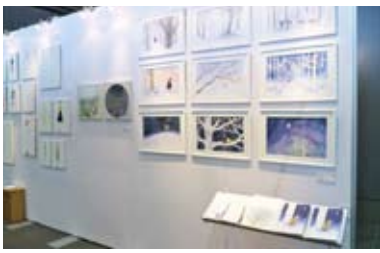
Department of Imaging Art



卒業制作展 2014

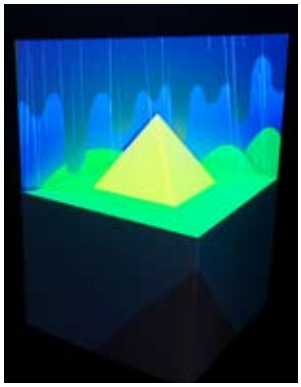
デザイン学科VC

Department of Design, Visual Communication Course



デザイン学科DC

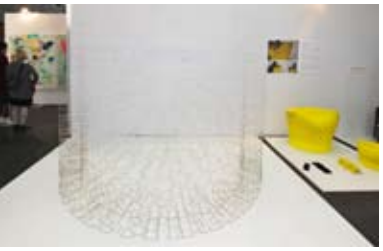
Department of Design, Digital Communication Course



卒業制作展 2014

デザイン学科HP

Department of Design, Human Product Course



インタラクティブメディア学科
Department of Interactive Media

卒業制作展 2014

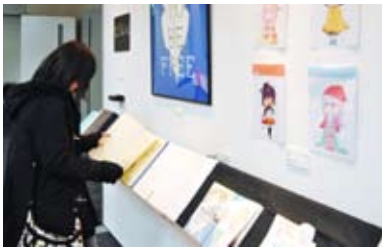
アニメーション学科

Department of Animation

ゲーム学科
Department of Game

卒業制作展 2014

マンガ学科
Department of Manga



大学院芸術学研究科
Graduate School of Arts, Master Course

Architecture_ 풍경 + 사람展을 맞이하여
Architecture_ 風景+ 人展を迎えて

도쿄공예대학에서 사진을 전공한 우리는 선후배간의 소통과 창작활동의 교류를 위한 동문전시회를 2011 년에 시작하여 2014 년 제 4 회 동문전시를 기획하게 되었다. 도쿄공예대학은 1923 년에 설립된 90 년의 역사와 전통을 자랑하는 대학으로 공학부 + 예술학부가 합쳐져 공예대학이라 한다. 예술학부에는 사진, 영상, 디자인, 인터랙티브 미디어, 애니메이션, 게임, 만화학과 7 개학과가 있다. 2014 년 현재 60 여명의 사진관련 유학생이 배출되었고 10 여명의 학생이 재학중이다. 대표적인 졸업생인 "신낙균 선생 (故 申樂均 ,1899-1955) 은 1927 년 우리나라 사람으로는 최초로 일본의 도쿄사진전문학교 (현 도쿄공예대학교 전신) 에서 사진을 공부하였으며 우리나라 최초의 공적 사진교육기관인 YMCA 의 사진과 교수로 부임하여 근대사진교육의 기초를 마련하였다.

이번 전시의 주제는 "Architecture_ 풍경 + 사람"展 이다. 금번전시에서는 한국에서 김수근건축사진가로 유명한 무라이 오사무 (村井 修) 선생이 촬영한 일본건축거장 "단게 겐조 (Kenzo Tange) 건축 - 도쿄국립경기장" 사진 6 점도 전시된다. 무라이 오사무 선생은 1950 년 도쿄사진전문학교 (현 도쿄공예대학) 졸업이후 1953 년부터 건축, 조각 등의 촬영을 시작했다. 1968-1990 년 도쿄사진대학 단기대학부에서 사진교육, 1967 년「 LIFE 」잡지의 연재테마 " The Family " 의 일본편 담당, 이후 TIME · LIFE 사의 촬영에도 참여하였다. 주요한 사진전으로 1982-2004 년 " 건축에 사진에 " 나고야 · 도쿄 · 서울展이 있으며 2010 년 일본건축학회문화상 " 2012" 일본사진협회공로상"을 수상했다.

서울의 숭례문이 그렇듯 세계 각국의 유명한 랜드마크는 대부분 건축물이다. 건축은 우리의 꿈과 환상을 실현하는 상징물이기도 하며 도시는 건축물로 표현된다. 브루노 제비는 "건축은 우리 삶이 펼쳐지는 무대"라고 했고 알랭 드 보통은 "건축은 예술이기 때문에 우리에게 말을 걸기도 하고 감동을 주기도 하고 위로를 얻게도 하는 존재"라는 것이다. 건축은 단순히 공간적 개념을 표현하는 수단이기보다는 그 속에서 이루어지는 활동을 표현하고 반영하며 시대와 사회를 반영한다. 현대건축에서 사진은 건축의 매력과 충격을 전하는 큰 존재이다. 금번 "Architecture_ 풍경 + 사람"展을 통해서 건축 _ 환경 _ 인간의 관계를 다시 한 번 생각해보는 시간이었으면 한다.

동문전시에 격려와 애정을 쏟아 주신 일본의 畑 鐵彦 (Hata Tetsuhiko) 선생에게 진심으로 감사드린다.

동경공예대학 사진전공 졸업생 일동

東京工芸大学で写真を専攻した私たちは先輩・後輩間の疎通と創作活動の交流に向けた同窓の展示会を 2011 年に始めて 2014 年第 4 回同窓の展示を企画するようになった。東京工芸大学は 1923 年に設立された 90 年の歴史と伝統を誇る大学で工学部 + 芸術学部が混ざって工芸大学という。芸術学部には写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメ、ゲーム、漫画学科 7 学科がある。2014 年現在 60 人余りの写真関連留学生が輩出され、10 人の学生が在学中だ。代表的な卒業生であるシンナクギュン先生 (故申樂均、1899-1955) は 1927 年韓国人では初めて日本の東京写真専門学校 (現東京工芸大学の前身) で写真を勉強し、我が国最初の公的写真教育機関である YMCA の写真と教授に赴任して、近代史の陳橋 6 の基礎を築いた。

今回の展示のテーマは "Architecture_ 風景 + 人 " 展だ。今回の展示では韓国で金壽根建築士真価に有名な村井修 (村井修) 先生が撮影した日本建築の巨匠 " 丹下 Kenzo Tange) 建築 - 東京国立競技場の写真 6 点も展示される。村井修先生は 1950 年東京写真専門学校 (現東京工芸大学) 卒業後の 1953 年から建築、彫刻などの撮影を開始した。1968-1990 年東京写真大学短期大学部で写真教育、1967 年 "LIFE" 雑誌の連載テーマ "The Family" の日本編担当、以後 TIME・LIFE 社の撮影にも参加した。主要な写真展で 1982-2004 年 " 建築に写真に " 名古屋・東京・ソウル展があり、2010 年日本建築学会文化賞 "2012 日本写真協会功労賞 " を受賞した。

ソウルの崇礼門がそうであるように世界各国の有名なランドマークはほとんど建築物である。建築は私たちの夢と幻想を実現する象徴物でもあり、都市は建築物で表現される。ブルーノツバメは " 建築は我々の人生が広がる舞台 " と述べ、アラン・・普通は " 建築は芸術であるため、私たちに言葉を掲げたりして感動を与えたり、慰めを得ることにもする存在 " というものである。建築は、単に空間的概念を表現する手段であるよりはその中において行われる活動を表現して反映して、時代と社会を反映している。現代建築で写真は建築の魅力と衝撃を伝える大きな存在だ。この度 "Architecture_ 風景 + 人 " 展を通じて、建築 _ 環境 _ 人間の関係をもう一度考えて見る時間を希望している。

同門の展示に激励と愛情を注いでくれた日本の畑鐵彦 (Hata Tetsuhiko) 先生に心から感謝申し上げている。

東京工芸大学 韓国写真専攻卒業生一同

제 3 회 동창회 한국지부총회를 마치고
第 3 回同窓会韓国支部総会を終えて

2012 년 한국지부로서 첫 발걸음을 시작하여 올해로 3 번째 총회를 마쳤습니다.

이번 총회에도 하타선생님과 이또가상, 영상학과에 이용욱 교수님이 함께 하셨습니다.

이런 전시회를 통하여 한국에서의 유학생이 저희 대학에 입학할 수 있는 기회가 되도록발전시켜 나아가자는 의견등이 있었습니다.

2011 년부터 시작한 동문전시회는 2014 년 4 회째를 맞이하였습니다.

2 월 13 일~ 19 일 충무로에 위치한 갤러리 이룸에서 'Architecture_ 풍경+ 사람' 이라는 테마로 전시회를 하였습니다.

이번 전시에는 졸업생 9 명, 하타선생님과 대선배님이자 건축사진으로 유명하신무라이 오사무 선생님께서도 전시에 함께해주셨습니다.

흔쾌히 작품을 보내주신 무라이 선생님께 다시 한번 감사에 마음을 전합니다.

단순한 친목도모적인 동창회 모임에서 선후배가 함께 무엇인가를 함께 만들어 나가는의미있는 활동으로 만들어가기 위함과 졸업후 귀국하는 후배들에 자연스러운 동창회 참여와 도움이 되었으면 하는 바램으로 전시회를 시작하였고, 앞으로도 계속되도록 모두가 힘써 나아가겠습니다.
그와 더불어 이런 전시회가 사진만이 아닌 다른 학과의 졸업생들도 함께 하는전시회가 되기를 바라며, 이번 총회와 전시회를 위해 힘써주신 동문 여러분과동창회측에 감사드립니다.

동경공예대학 동창회 한국지부장 한 승 탁

2012 年韓国支部として第一歩を始めて今年で 3 回目の総会を終えました。

今回の総会にも畑先生と糸賀さん、映像学科の李容旭教授が参加されました。

私どもの大学に韓国の留学生が入学できるきっかけのひとつとしてこのような展覧会を発展させていこうという意見などがありました。

2011 年から始めた同窓会展示会は 2014 年 4 回目を迎えました。

2 月 13 日から 2 月 19 日まで忠武路（チュンムロ)に位置したギャラリーイルムで 'Architecture_ 風景 + 人 ' というテーマで展覧会を行いました。

今回の展示参加者は卒業生 9 人、畑先生です。また大先輩であり建築写真で著名な村井靖先生も展示に共にして下さいました。

快く作品を送ってくださった村井先生にはもう一度御礼申し上げます。

単純な親睦会的な同窓会の集いから先後輩が共に何かを作る意味のある活動としての展覧会、卒業後帰国する後輩に自然な流れて同窓会への参加できるきっかけとしてこのような展覧会を始めたわけですが、今後も続きますよう韓国支部の皆が努力して参ります。

また展覧会の内容においても写真だけでなく他の学科の卒業生も一緒に盛り上げていける展覧会になることを願いながら、今回の総会と展示会のために努力して下さった同窓会のみなさまと同窓会の実行委員会へ感謝申し上げます。

東京工芸大学同窓会韓国支部長　韓 承卓 （ハン　スンタク）（73 期）

■第36 期　写真工業科クラス会

秋、復興現場の見聞も兼ね松島を旅しました。

案内の車中や現場での説明を聞く度に自然の脅威と犠牲者への思いがつのっていきました。

湾内の島々が防波堤となって松島の町を津波から護ったということは当時の報道でもしっておりました。しかし、島の中には 900 人もの有人の島もあり、而も島ごと巨大津波に呑みこまれながら 1 人の犠牲者も出なかったという話は初めて聞くものでした。

津波の襲来を前に、地震で散壊した家財の中から蓄えの幾らかでも持ち出したいという欲望さえ断ち切り警報に皆素直に従ったことが全ての命を救ったとの話には深い感動を覚えました。

そんな数々の見聞に感想や意見が飛び交い、帰りの新幹線もいつになく盛り上がった旅となりました。

佐土原　一浩 3（36 期）

■もうすぐ傘寿の30 期会

30 期同期会が、平成 25 年 10 月 2 日、小石川後楽園の涵徳亭で行われました。

不定期ではありますが、この処 2 ～ 3 年に一回のペースで行われ、今回で 8 回を数えました。幹事は、技術科、工業科、製版科が持ち回りで行い、今回の当番幹事は製版科の古屋、中村、水町、村山でした。

生憎当日は千葉県東方沖を台風が北上し、朝から雨に見舞われ、幹事一同心配しましたが、総勢 30 名の処、 2 名の飛び入りというハプニングがあり、出席率 108％という好成績でした。

福井から下村、広島から橋本、奈良から安川、さらに、長野から小林など遠くから来た仲間もいて、乾杯の後、自己紹介になれば、ここ一年で全ての仲間が傘寿を迎えることになりますが、話は決まっています、60 数年を遡ります。いろいろの話の中から 30 期展の話も飛び出してきました。今後幹事会で実現に向け詰めていきたいと思います。

当日の集合写真、そろそろ名前と顔が一致しなくなってきた等との声を耳にした。幹事からの提案もあり、氏名を印刷した薄紙をプリントの上に載せお配りした。後に何通かのお便りを頂き大変好評の様でした。

終宴後、庭園に立つと台風一過のまぶしい木漏れ日が素晴らしかった。皆さん再開を約束し家路につきました。

村山　明寛（30 期）

■34 期・写真工業科・同窓会（平成 25 年 12 月 14 日）

毎年 12 月の第２土曜日を同期会の日と定め、以来絶えることなく開催してきた結果、何と 32 回目（31 年目）を迎えました。

今回は、相沢忠勝・末次祥宏の両氏が幹事となり、新宿三丁目の「木曽路」での開催となりました。同期の仲間は 52 名ですが、14 名の故人、７名の消息不明者の関係から、結局、14 名の出席となりました。それでも、親しい仲間だけに、また昔懐かしい新宿での開催ということもあり、短い時間ではありましたが、再会を喜び、大変楽しいひと時を過ごしました。

なお、次回は本年 12 月 13 日（土）13 時から、今回と同じ「木曽路」です。同期生一同、その日に向けて体調を整え、元気でお会いしましょう。

川名　晴美（34 期）

■写大42 期　印刷科同期会報告

毎年開催している写大 42 期同期会、去年の 11 月 30 日（土曜日）東京都新宿区神楽坂のスナックにて開催しました。14 名参加しお酒を酌み交わしながら学生時代の思い出話や、参加者全員の現況報告などで話が盛り上がり、お酒も進む中、全員がそれぞれの美声でカラオケを楽しみ、あっという間に時間が過ぎてしまい、最後にまた元気で再開することを願い、一本締めの後散会しました。

“ひろば”を見て是非参加したい方は連絡ください。待っています。

幹事　落合　富士雄（42 期）

写真学科　肖像写真研究室作品展

2014 年２月 13 日（木）～２月 19 日（水）に　一般社団法人　日本写真文化協会のポートレートギャラリーにて「東京工芸大学芸術学部写真学科　肖像写真研究室 作品展」が開催されました。

肖像写真研究室は、卒業後に営業写真館に就職し、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的に、2013 年４月に新設され、研究室では実践に即した実習と併せて、これからの時代に相応しい肖像写真のあり方について探求しています。

この展覧会は 2014 年３月に卒業を迎える記念すべき肖像写真研究室１期生の学生が、振付の実習を活かした和装の肖像や、家族写真・イメージポートレートなど、それぞれの考え方でつくった「肖像写真」を披露しました。

上田　耕一郎（75 期）

ひろばのページ

土門拳写真展「手」

2014 年 1 月 20 日（月）～3 月 28 日（金）
写大ギャラリー
主催：東京工芸大学芸術学部

明日のデザインと福島　治
〔Social Design & Poster〕

ギンザ・グラフィック・ギャラリー
中央区銀座 7-7-2　DNP 銀座ビル 1 F
第 331 回企画展
2014 年 3 月 6 日（木）～3 月 31 日（月）

ddd ギャラリー　第 119 回企画展
2014 年 6 月 27 日（金）～7 月 31 日（木）

福島　治（デザイン学科教授）

ワルイモノ展

2014 年 4 月 14 日～4 月 20 日
デザイン・フェスタ・ギャラリー原宿
園田美里・宮川はづき・佐々木沙織・
中野康美・大門麻美（87 期）

訃　報
（敬称略）

本　荘　　誠	（第８期）	
田　平　嘉　男	（第16 期・写真芸術科）	
遠　山　　忳	（第16 期・写真理学科）	
三　宅　五　郎	（第17 期・写真理学科）	
野々垣　文　雄	（第24 期・写真技術科）	
久　保　益　利	（第26 期・写真技術科）	
岩　朝　哲　男	（第29 期・写真技術科）	
後　藤　隆　道	（第31 期・写真技術科）	
北　原　庸　光	（第32 期・写真工業科）	
石　川　光　男	（第33 期・写真工業科）	
金　子　隆　幸	（第34 期・写真工業科）	
星　　周　次	（第34 期・写真工業科）	
小野瀬　洋　一	（第37 期・写真印刷科）	
鈴木（関）義彦	（第37 期・写真印刷科）	
長谷川　　清	（第38 期・写真工業科）	
小木津　　昇	（第39 期・写真印刷科）	
神　田　　実	（第47 期・写真技術科）	
諏訪間　高　行	（第53 期・画像技術科）	

編集後記

中野キャンパスのリニューアルも２号館の建屋が完成して最終段階に到達しました。今年は 90 周年行事も行われるということで本学も新たな時代を迎えようとしています。新年度からは芸術学部全学科の３・４年生が中野キャンパスに集い、賑やかになります。同時に短大時代からの教員は、私を含め２名だけと寂しくなり、卒業生の訪問も少なくなっています。同窓会事務局は月～金曜日の間、担当の者が必ず居ますのでお近くに来た際には是非立ち寄り下さい。事前に TEL またはメール、FAX 等にて連絡戴けると元教員の方々にも会うことが出来るかもしれません。

広報委員長　福村　敏（45 期）